

河馬

中島敦

青空文庫

河馬の歌

うす紅くおほに開ける河馬の口にキャベツ落ち込み行方知らずも

ぼつかりと水に浮きゐる河馬の顔郷愁も知らぬげに見ゆ

この河馬にも機嫌・不機嫌ありといへばをかしけれどもなにか笑へず

赤黒きタンクの如く並びゐる河馬の牝牡われは知らずも

水の上に耳と目とのみ覗きゐていぢらしと見つその小さきを

×

×

わが前に巨き河馬の尻むくつけく泰然として動かざりけり

無禮げにも我が眼の前にひろごれる河馬の臀のあなむくむくし

臀のたゞ中にして三角の尻尾かはゆし油揚げのごと

これやこのナイルの河のならはしか我に尻向け河馬は糞する

事終り小さき尻尾がパシヤ／＼と尻を叩きぬ動きこまかに

丘のごと盛上る尻をかつ／＼も支へて立てる足の短かさ

三角の尻尾の先端さきゆ濁る水のまだ滴したりて河馬は動かず

狸

春しゅん 晝ちうの静しずけきまゝに暫しばくは狸の面つらの澁しぶきを嘉よみ
 藁わらの上へに驚おどき顔の狸はもシヨペンハウエルに似にたりけらずや
 瞞だますなど誰たれがいひけむ瞞だまされて身を嘆なげきなむ狸の面つらぞ

黒豹

ぬばたまの黒豹の毛もつやくと春陽はるびしみみに照りてゐにけり
 思おもひかね徘徊たもとほるらむぬば玉の黒豹いまだ独り身みならし

マント狒ひ

マント狒は身長三尺余、毛は長くして白色。純白のマントをまとへるが如し。但し面部と臀部のみ鮮かなる紅色（桃色に近し）を呈す。

銀白の毛はゆたかなれどマント狒尻の赤禿包むすべなし

マント狒の尻の赤さに乙女子は見ぬふりをして去にけるかも

白熊

仰向けに手足ひろげて白熊の浮かぶを見ればのどかなりけり

白熊の白きを見ればアムンゼン往きて還らぬむかし思ほゆ

眠り獅子の歌

何時見ても眠るよりほかにすべもなきライオンの身を憐れみにけり

埒もなき状にあらずや百獸の王の日向に眠れる見れば

うとくと眠れる獅子の足裏に觸れて見たしとふと思ひけり

海越えてエチオピアより來しといふこのライオンも眠りたりけり
うつゝなき夫の鼻先に尻を向けこれも眠れり牝のライオン
汝が國の皇帝もすでに蒙塵と知らでやもはら獅子眠りゐる

仔獅子

獅子の仔も犬の仔のごと母親にふざけかゝるところがされけり
肉も未だ締らぬ仔獅子首かしげ相手ほしげに我が顔を見る
親獅子は眠りたりけり春の陽に屈託げなる仔獅子の顔や

駱駝(らくだ)

生きものの負はでかなはぬ苦惱くるしみの象徴かもよ駱駝の瘤は
やさし目の駱駝は口に泡ためて首差しのべぬ柵の上より

孔雀の歌

よく見れば孔雀の眼切れ上り猛鳥の相ありくと見ゆ
 (インド) 印 度 なる葉廣菩提樹の蔭にしてひろげ誇らむこの孔雀の羽尾
 ほこり
 いと憎き矜恃なりけり孔雀はも餌を拾ふにも尾をいたはりつ
 リクキウ
 六宮の粉黛も色を失はむ孔雀一たび羽尾ひろげなば
 はね

縞馬

縞馬の縞鮮かにラグビイのユニフォームなど思ほゆるかも

ペリカンの歌

ペリカンは水の浅處に凝然と置物のごと立ちてゐるかも
 あさど
 浴して櫛梳りけむペリカンの濡れたる翼の桃色細毛
 ゆあみ
 くしけづ
 はね
 ももいろほそげ

舶來の石鹼の香も匂ひなむうす桃色のペリカンの羽毛
ペリカンの圓ら赤目を我見るにつひに動かず義眼の如し
長嘴の下の弛みも凋みたりふくらむものと我は待ちしに

禿鷲

プロメトイス苛みにけむ禿鷲も今日は寒げに肩を張りゐる
アンデスの巖根嶮しき山の秀の鋭どき目かもコンドルの目は
ジャングルに生ふる羊齒草えびかづら間なくし豹はたちもとほるを
短か手を布留の神杉カンガル―春きたれりと人招くがに
春の陽に汝が短か手を千早ぶるカンガル―は耳を搔かんとするか
去年見しと同じき隅に石亀は向ふむきたり埃を浴びて

山椒魚

山椒魚は山椒魚らしき顔をして水につかりゐるたゞ何となく

鶴

あさりする丹頂の前にしまらくは目^ま守りたりけり心清^{すが}しく
水浅く端然と立つ鶴瘦せて口^{くちべに}紅ほどのとさかの紅^{あか}や

火喰鳥

火くひ鳥火のみか石も木も砂も泥も食はんず面^{つら}構へかも

ホロホロ鳥

ホロホロとホロホロ鳥が鳴くといふ霜降色の胸ふくらせて

駝鳥

障礙ハードルも容易やすく越ゆべし汝が脚の逞しくして長きを見れば
何處(どこ)やらの骨(こつとう)董店てんみせの店さきで見たることあり此奴こやつの顔を
何故なにの長き首なでも中ほどをギユウと掴めばギヤアと鳴くらむ

大蛇

うねくとくねりからめる錦蛇ひとつ一匹にかあらむ二匹ふたつにかあらむ

大青蜥蜴とかげ

口あけば大青蜥蜴舌ほそく閃々せんとして青せいえんはし奔る

再び 山椒魚について

山椒魚は山椒魚とかなしきをもてるが如しよくよく見れば

麒麟^(きりん)の歌

黒と黄の縞のネクタイ鮮やけき洒落者^{みやびをとこ}と見しは僂^{ひがめ}目か

春の夜のシャンゼリゼエをマダム連れムツシュ・ヂラフがそゞろ歩むも

社交界の噂なるらむ麒麟氏が妻をかへりみ何かいふらしき

山^{ダービー}高も持たせまほしき男ぶり麒麟しづくと歩みたりけり

泥^{ぬかるみ}凜^よを避けて道行く禮装の紳士とやいはむ麒麟の歩み

隙もなき伊達男^{ダンデー}ぶりやワイシャツの汚れもさぞや気にかかりなむ

ハイエナ（鬣狗）

死にし子の死亡届を書かせける代書屋に似たりハイエナの顔は

カンガルウ

力無きばつたの如も春の陽に跳び跳びてをりカンガル―二つ
柵内さくうちの砂乾すなきゐて春風しゅんぷうにカンガル―跳ぶ跳躍とびのさぶしも

熊

立上り禮ゐやする熊が月の輪の白きを賞めでて芋を與へし
熊立てば咽喉の月の輪白たへの蝶ネクタイとわが見つるかも

象の歌

年老いし灰色の象の前に立ちてもものうきまゝに寂しくなりぬ
象の足に太き鎖見つ春の日に心重きはわれのみならず

心はれぬ様に煎餅を拾ひゐる象はジャングルを忘れかねつや

×

×

子供一人菓子も投げねば長き鼻をダラリブラリと象徘徊ほる

花曇る四月の晝を象の鼻ブラリくと揺れてゐたりけり

徘徊ほる象の細目の賢し眼に諦観の色ものうげに見ゆ

この象は老いてあるらし腹よこれ鼻も節立ち牙は切られたり

象の顎に白く見ゆる毛剛げにて口には涎湛へたるらし

鰐魚の歌

さきつ年アフリカゆ來し鰐怒り餌を食はずして死にけりとぞ

故もなく處移されて知らぬ人の與ふる食を拒みけむかも

飢ゑ死にし鰐の怒りを我思ふわれの憤りに似ずとはいはじ

(こもり)
蝙蝠

小笠原の大蝙蝠は終^{ひねもす}日を簑蟲のごとぶら下りたり
晝を寢^ぬる倒^{さか}さ蝙蝠よく見れば狡^{ずる}げなる目をあいてゐにけり
手の骨の細く不^{けうと}気味き蝙蝠はひねこび顔に何をたくらむ

穴熊

うつし世をはかなむかあはれ穴熊は檻^{をり}の奥處^どにべそをかきゐる
穴熊の鼻の黒きに中學の文法の師を思ひいでつも
穴熊の鼻の黒きが氣になりぬ家に歸^{いま}りて未だ忘れず

雉

春の陽を豊かに浴びてさ野^ぬつ鳥雉^{きぎし}子は専^{もは}ら砂浴びてゐる
家^{かけ}つ鳥鷄の匂を思ひけり野^ぬつ鳥雉^{きぎし}の小舎の前にして

(ふくろう)
梟

何處にか汝が古頭巾忘れ來し物足らぬ氣ぞ汝の頭の
 大きなおどけ眼も陽の中に見えぬと思へば哀れなりけり

猪

藁屑と泥にまみれてぼやきつゝ猪の口うごめきあさる

カメレオン

日に八度色を変ふとふ熱帯の機會主義者（青き魔術師）カメレオンぞこれ
 蠅來ればさと繰出すカメレオンの舌の肉色瞬間に見つ
 長く圓き肉色の舌ひらめくやカメレオンの口はたと閉ぢけり

カメレオンが木に縋^(すが)りゐる細き尾のくるくると巻く巻きのおもしろ
カメレオンの胴の薄さや肋骨も翠^(みどり)なす腹に浮きいでて見ゆ

鵜^(う)の歌

豆州稻取海岸にて

山直ちに海に崩れ入る岩の上に飛沫浴びつゝ鵜は立ちてゐる
我が投げし石はとどかず崖下の氷雨^(ひさめ)しぶかふ荒磯の鵜に
たちまちに海黒み來ぬ巖^(いは)の上の鵜の聲風に吹消されつゝ
雨まじり吹く風強み岩の鵜は翼^(つばさ)收めてこらへてをるも

鸚^(おうむ)の歌

まどろみゐてふと眼をあけし赤羅鸚^(あから)鵒我を見いでて意外^(おもはず)気なり
緋衣^(ひごろも)の大嘴鸚^(おほはし)鵒我を見てまた懶^(もの)うげに眼をとちにけり

娼婦たはれめの衣裳きぬを纏きへる哲学者鸚鵡眼うぐいすめをとちもの思おもひをる

いにしへの達磨大師に似たりけり緋衣曳ひききてものを思おもへば

眼をとどて日にぬくもれる緋鸚鵡うぐいすめの頬の毛脱ぬけていたくしげなり

緋に燃ゆる胸毛むちに嘴くちを挿入れて鸚鵡うつく眠りてゐるも

麻の實をついばむ鸚鵡かたへなる我を無視してひた食はみに食はむ

嘴くちと嘴疾はしく動きつゝまつ黒の鸚鵡の舌はまるまりて見ゆ

麻の實の殻を猛烈はしに弾はじき飛ばす赤羅裳あからも鸚鵡ひたむきなるを

年老いし大赤鸚鵡翼はねさきの瑠璃色なるが伊達者めきたり

小蝦(こえび)の歌

——土肥海岸所見——

潮ひきし岩のくぼみの水溜りこた許多小蝦の影ひそみある

飴色ひに陽に透きとほる小蝦らの何か驚きにはかに乱る

幾多こたの小蝦隠れし砂煙やがて静まり水澄みにけり

砂煙の砂の一粒一粒が音なく沈み蝦隠れけり

黒鯛の歌

——土肥釣堀にて——

巖陰^{いはかげ}はさ青に透り黒鯛の尾緒白々と妖しく^{あや}翻^{かへ}る
洞窟に光は入らず黒き水の湧くが如くに黒鯛群^むるる

仔山羊の歌

熱川^{あた}の浜に一匹の仔山羊あり

海に向ひてしきりに啼く

その聲あはれなりければ

荒濱に仔山羊が一つ啼きてをりあはれ仔山羊は何を欲^ほりする
大島も黒雲がくり隠れけり仔山羊は何を見らむとすらむ

曇り日の海に向ひて立ち啼ける仔山羊は未だ角みじかかり
潮風にみじかき髯を吹かせる仔山羊の眼ぬち哀しと思ふ

青空文庫情報

底本：「中島敦全集」筑摩書房

2001（平成13）年12月20日初版第1刷発行

※（ ）付きのルビは編集部の付したもので、編集部の方針により現代仮名遣いになっています。

※「機會主義者」《オツポチュニスト》（青き魔術師）の「（青き魔術師）」は底本では「機會主義者」の左側に注記されています。

入力：桑田康正

校正：小林繁雄

2005年1月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

河馬

中島敦

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>